

# 生涯活躍のまち推進協議会と 生涯活躍のまち移住促進センター について

生涯活躍のまち推進協議会  
副会長 高橋 英與

2015年10月30日

# ＜生涯活躍のまち推進協議会の設立＞

---

- 10月9日に、「生涯活躍のまち推進協議会」(任意団体)を発足。
- 位置づけ
  - 日本版CCRC構想有識者会議で出された「生涯活躍のまち」の課題・方針の具現化を支援する役割を担う。
- 目的
  - 「生涯活躍のまち」構想として、地域に住むあらゆる人々が、本人が望む地域に移り住み、もしくは暮らし続け、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療や介護・生活支援などのケアを受けることができるような地域づくりの具現化及び実践の支援をすることを目的とする。
- 設立発起人
  - 雄谷良成: 社会福祉法人佛子園 理事長
  - 受田浩之: 高知大学 副学長
  - 大須賀豊博: 社会福祉法人愛知たいようの杜 理事長
  - 冨永純正: 公益社団法人青年海外協力協会 会長)
  - 袖井孝子: 一般社団コミュニティネットワーク協会 会長
  - 高橋英與: 株式会社コミュニティネット 代表取締役

# <生涯活躍のまち推進協議会連携図、組織構成>

政策立案  
自治体支援

まち・ひと・しごと  
創生本部

日本版CCRC  
構想有識者会議

課題整理  
方針提示

以下の助言、情報収集、分析

- ①人材育成
- ②移住促進
- ③大学連携
- ④行政と事業者の連携
- ⑤地域包括ケアの構築
- ⑥事例の蓄積・分析・評価

生涯活躍のまち  
推進協議会

## <会員>

- ・社会福祉法人佛子園
- ・社会福祉法人愛知たいようの杜
- ・公益社団法人青年海外協力協会
- ・一般社団法人コミュニティネットワーク協会
- ・株式会社コミュニティネット

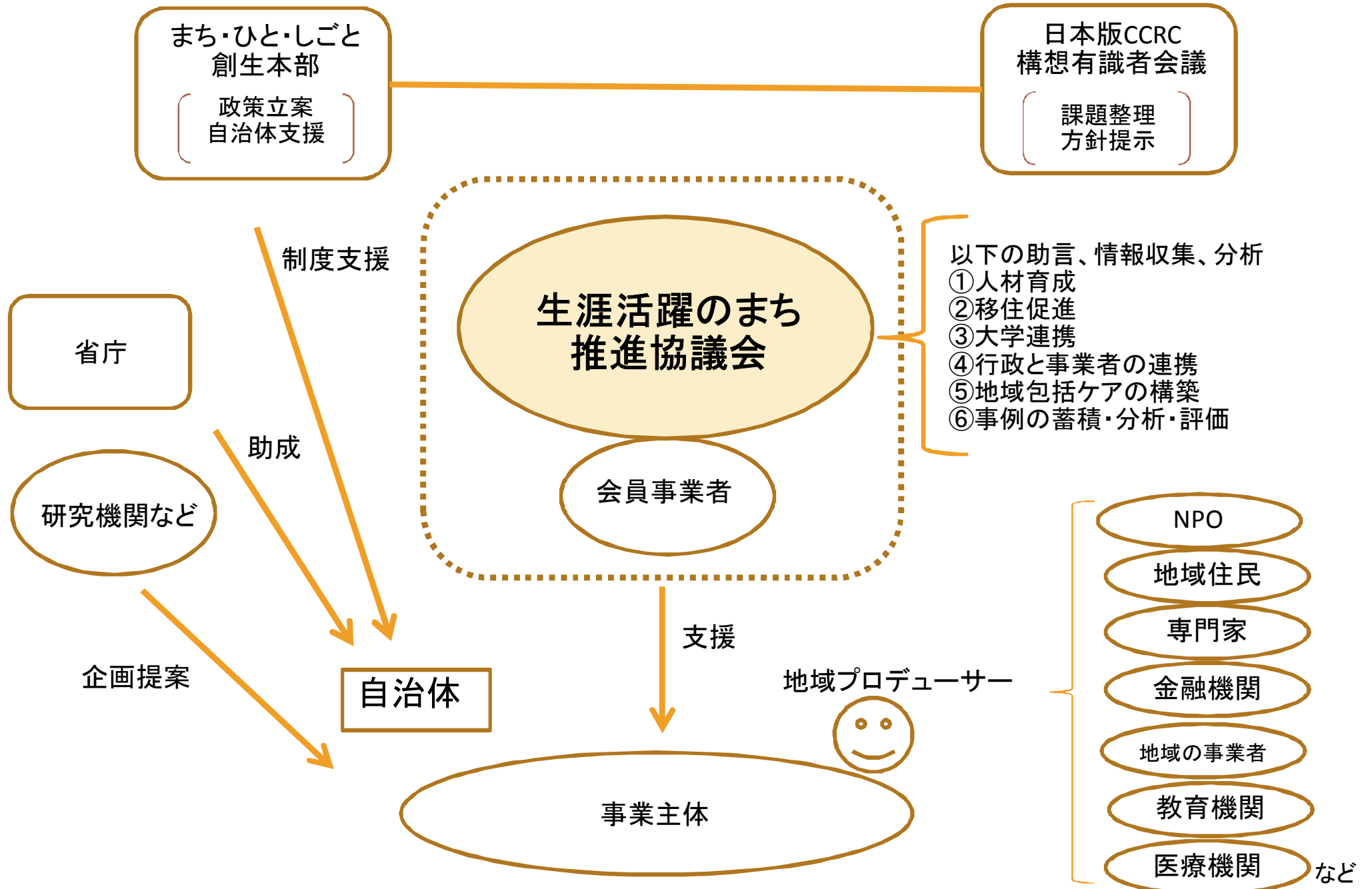
## <理事>

- ・会長 : 雄谷(佛子園)
- ・副会長: 高橋(コミュニティネット)
- ・副会長: 大須賀(愛知たいようの杜)

## <アドバイザー:有識者>

- ・受田: 高知大学
- ・辻: 東北大学大学院
- ・星: 首都大学東京
- ・長: 東日本税理士法人

# <生涯活躍のまち推進協議会の役割と連携のイメージ図>



# ＜生涯活躍のまち移住促進センターの様子：内覧＞

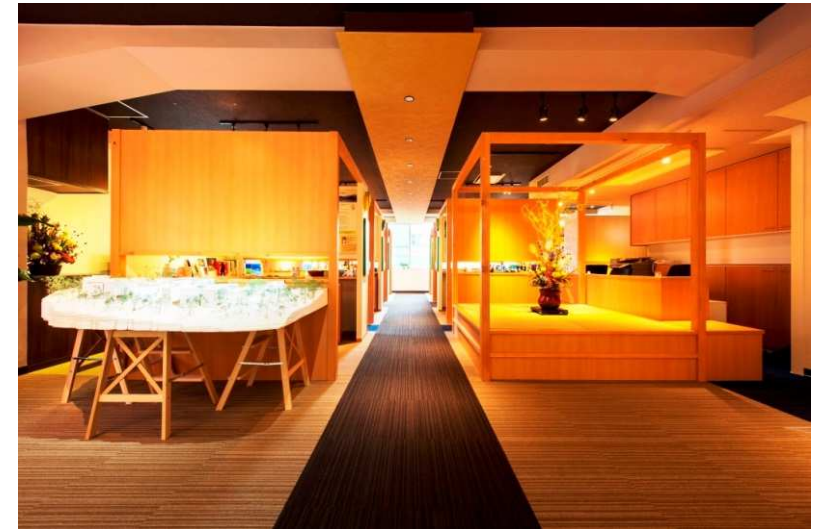
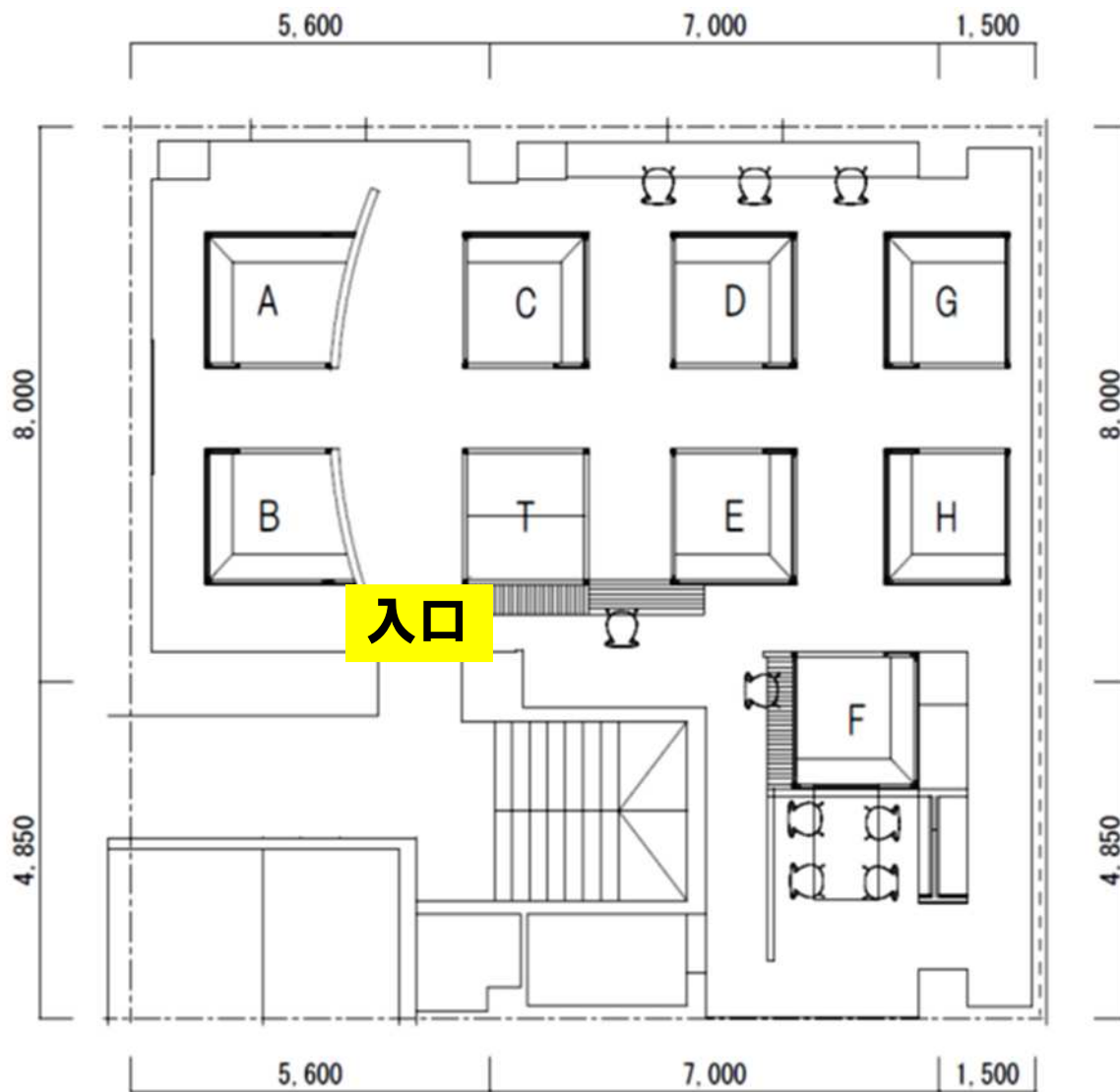


入口

入口奥



# ＜生涯活躍のまち移住促進センターの様子：配置＞



通路：入口から



通路：奥から

# <生涯活躍のまち移住促進センターの様子：先行モデル>



先行モデル



# <生涯活躍のまち移住促進センターの様子:ブース>



ブース:厚沢部

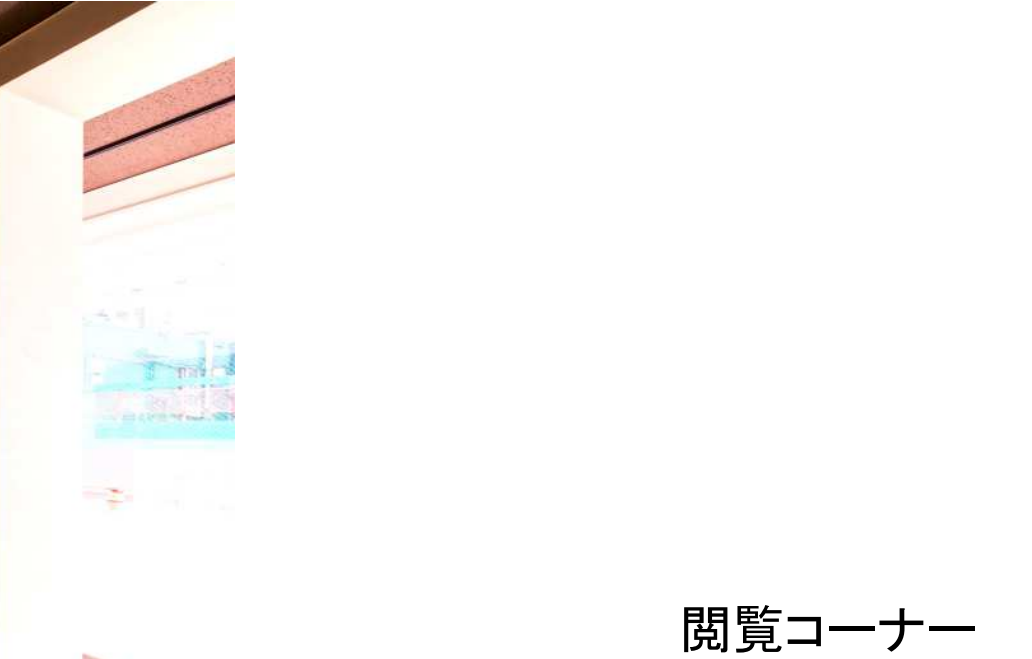




# <生涯活躍のまち移住促進センターの様子：相談室>



相談室



閲覧コーナー



# ＜生涯活躍のまち移住促進センターの様子：展示内容＞

世界一素敵な過疎のまちを目指す。

## 厚沢部町



ご存じですが、厚沢部町はメークイーンの故郷。7月の厚沢部町です。



町のソバ好きが集まって、水車で蕎麦をひいています。



カレーとコーヒーが、「カンパニー」の主人藤岡さんは、2匹のネコと暮らしています。



医療と介護の一大拠点目指す、'ゆいま〜る厚沢部'。



厚沢部ロールケーキ夫人、'くらや敷屋'の身台さん



氷川から移住の輪島産、山田実香と愛犬ランゴくん。



創業130年、老舗洋菓「森野洋菓」を一人で切り盛りする森野さんご家族。



郷りになる「厚沢部産地産」町産の大豆をたっぷり使った、



町の中心を流れる厚沢部川は、アユ釣りのメッカ。



農家の体験音が求められています。厚沢部産のホウレンソウを収穫する山田実香



町の農産と協力で育てたメークイーンを使った本指しやがいの焼酎「厚多屋」の製造。札幌調剤工業株式会社 工場副所長



厚沢部の地場古材を利用して建てられた、人気の"ちょっと暮らし住宅"。



バスは1時間に1本。

ブース展示内容：厚沢部



# ＜生涯活躍のまち移住促進センターの様子：展示内容＞

## 厚沢部町版 生涯活躍のまち 2019

移住促進と住民サービスの充実、  
それによる雇用の場の創出。

### 教育、介護、医療、 安心のまちづくりに 取り組んでいます。



#### 町立病院改革と 地域包括ケア

町民のニーズに応える地域医療としての改革を進め、集約化を進め、町民が在宅であっても安心して介護を受けられるよう、地域医療ケアの展開に向けた組織体制の整備を進めます。



#### 認定こども園 開園

既存の3つの認可、無認可の保育所を統合して、町の中心地に認定こども園を開設し、0歳～就学前の子どもたちが安心して成長する場として、すべての子育て多様な方針に相応しい子育ての場を提供します。



#### サービス付き 高齢者住宅建設

町内に40戸程度のサービス付き高齢者住宅を建設し、安心安全の環境として入居者を確保し、介護する課題(認知症、上肢運動)生きたりパークゴルフ場、町営テニスコートが利用できることで地元は元との交流も盛んになります。



#### 給食センター 開設

地域経済、安心した食の提供によるまちづくりを推進するため、町立の給食センターを開設して、認定こども園、小中学校、在宅の高齢者への配食サービスを行い、栄養管理された食事の提供で健康維持促進を図ります。



#### 廃校利用の 介護専門学校開校

介護従事者の人材不足解消に向け実習地と雇用の場の創出をめぐり、介護福祉士資格取得、体験学習、在宅介護の現場、ペーパー介護士の養成、スキルアップ研修を行うほか、外国人学生の人材育成に一部日本での就職も促進します。

## 厚沢部町では移住される方を迎えるための さまざまな助成制度をご用意しています。

### 厚沢部町移住・定住サポートプラン

**ふるさと定住サポート**

- ◎結婚祝い金(10万円を上限)
- ◎結婚仲人謝儀金(結婚祝金の対象とされた仲人に対し、結婚成立1年につき5万円、最高限度の場合は10万円を上限)
- ◎誕生祝い金(10万円を上限)
- ◎定住促進奨励金(専業主婦等は10万円、単身等は5万円を上限)

**子育てサポート**

- ◎保育料助成(園児1人当たり月額2,000円)
- ◎学校給食費助成(小学校児童1人当たり月額1,500円、中学校生徒1人当たり月額2,000円)
- ◎乳幼児及び児童生徒奨励助成(0～15歳までの乳幼児及び児童生徒にかかると推定される医療費から児童等が負担する部分の一部)

**持家サポート**

- ◎奨励金の交付対象(平成22年3月31日までに町内に所有住宅を新築または購入した者)150万円
- ◎追加または加算奨励金(厚沢部町職工職員による竣工の場合:50万円程度の商品券を追加交付、老人体等と同居する住宅を新築または購入した場合:30万円を上限)

**農業担い手育成サポート**

- ◎農業専攻学生(農業の子供で国立農業大学校等に入学し、卒業後、農業従事者として5年以上従事することが確実と認められる者)には、年間10万円の就労補助金を在学期間中に交付)
- ◎農業研修生(農業の子供で農業技術等の習得を目的とした公的機関等が実施する農業研修に参加し、研修後、農業従事者として5年以上従事することが確実と認められる者、又は農業経営を行うものにあたっては園内研修参加費助成金の1/2(上限20万円)、園外研修参加費助成金の1/2(上限30万円)の研修補助金を交付)
- ◎新規就業者(農業の子供で、55歳以下で農業従事者と認められ、農業に従事してから5年以内で町長が定めた年間農業所得を確保できる計画がある場合、50万円の就業奨励金を交付)
- ◎新規就業者(農業経営開始時の年齢が20歳以上55歳以下で、就業から5年以内で町長が定めた年間農業所得を確保できる計画がある場合、就労奨励助成金100万円、経営自立補助金(農地での年間賃料の1/2を5年間)、経営安定補助金(農地等に開墾される認定農産物栽培施設を開設された年の6/5年間)交付)



暮らしマップ  
役場の近くに、みんなで暮らします。



「移住して6年、町民としての誇りも感じる。厚沢部町の魅力を友人に語っていました。」  
田中 美穂さん

ブース展示内容：厚沢部

# <生涯活躍のまち移住促進センター：連携先とアクセス>



## 生涯活躍のまち移住促進センター

住所: 中央区八重洲1-5-15 田中八重洲ビル5F

電話(フリーダイヤル): 0120-154-732

オープン時間: 10:00~18:00(月~土)

休館日: 日曜祝日

メール: :info@iju-center.jp

ホームページ: <http://iju-center.jp/>

フェイスブック: <https://www.facebook.com/ijucenter>

アクセス:

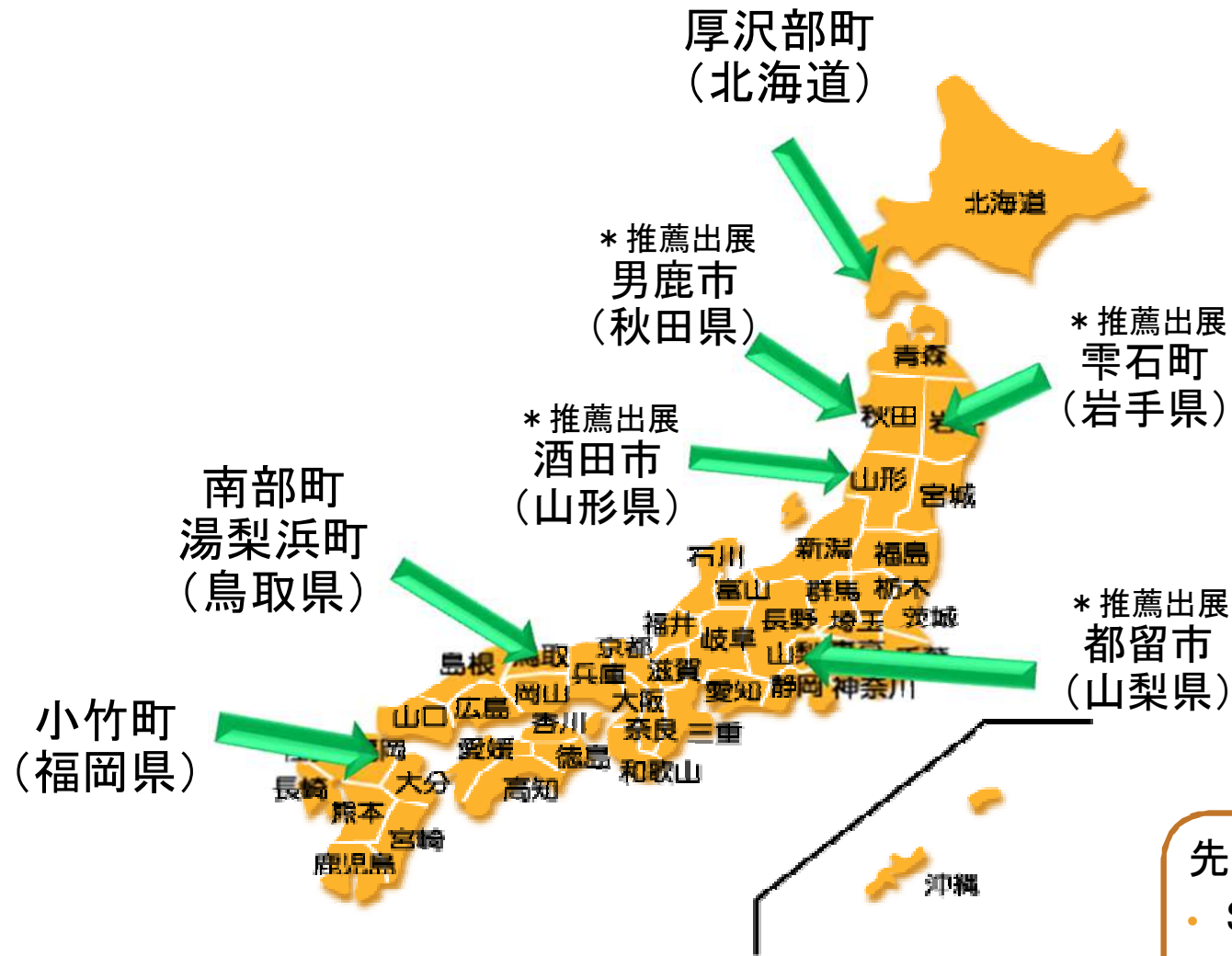
JR各線 東京駅 八重洲北口 徒歩3分

東京メトロ丸の内線 東京駅 八重洲北口 徒歩3分

東京メトロ銀座線・東西線 日本橋駅 B3出口 徒歩3分

都営地下鉄浅草線 日本橋駅 B3出口 徒歩3分

# ＜生涯活躍のまち移住促進センター：出展自治体＞



## 先行事例紹介

- Share金沢 (石川県)
- ゴジカラ村 (愛知県)
- ゆいま〜る那須 (栃木県)

\* 推薦出展は、同センターが推薦する自治体として期間限定で展示しています。

# <10月9日開設式の様子:内覧会>



山崎総括官、深谷町長(雫石)



渋田町長(厚沢部)、深谷町長(雫石)

# <10月9日開設式の様子：記者会見、開所式>



雄谷会長



大須賀副会長



袖井発起人



山崎総括官



高橋副会長



# <10月9日開設式の様子:シンポジウム>

渋田町長  
(厚沢部町)



高岸副町長  
(小竹町)



坂本町長  
(南部町)



受田副学長



宮脇町長  
(湯梨浜町)



地域プロデューサー  
吉木(厚沢部町)  
関(雫石町)  
山中(都留市)



# <移住促進センターの役割:移住希望者の視点から>

---

- 対象:活躍したい人、何となく考えている人
- 役割
  - 相談員による生活設計
    - お金、家族、住まい、仕事、生きがい、など
  - 学び・体験の場
    - セミナー、体験談、現地体験ツアー、地元との交流、など
  - 仲間づくりの場
    - グループづくり、など
  - 不安の解消の場
    - 住まい、仕事、地元との交流、ケア、など
  - 情報提供の場
    - 出展自治体、先行事例、連携先、など

# <どうやって移住希望者を集めるか>

---

- 他組織との連携
  - ふるさと回帰支援センター
  - 移住・交流情報ガーデン
  - JOIN
  - アンテナショップ、自治体の東京事務所、移住コンシエルジェ、など
- マスコミとの連携
  - 事例、ニーズ、声、など
  - 連携イベントの開催、など
- WEBやSNSでの情報発信
- セミナー、フォーラムの開催

**移住体験者に聞く**

**やっぱい日本！**

**旅行では見つからなかった 生きがい再発見**

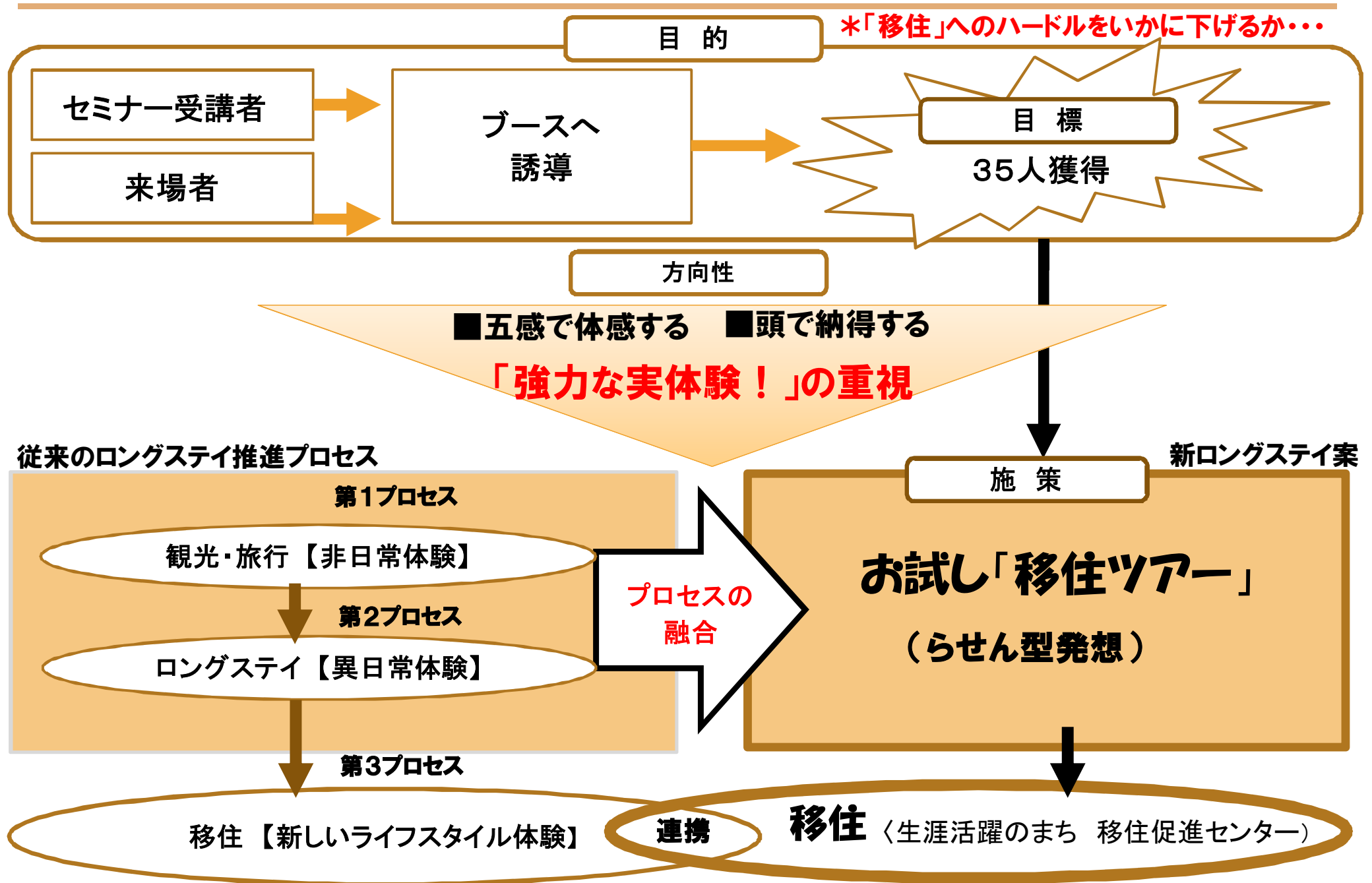
ロングステイフェア2015 出展内容(案) Vol. 2

2015. 10. 29

生涯活躍のまち移住促進センター

---

# 1. 展示およびセミナーの目的と方向性



## 2. 移住促進センター 「ブース」と「セミナー」の考え方

### ■「移住」に対するハードルを下げる■

#### 目的

- ①生涯活躍のまち 移住促進センターの認知促進
- ②移住に関する情報提供と相談（特に「お試し居住」、「二地域居住」）

#### ターゲット

- ①フェア来訪者1万人中60歳以上44%、50歳以上78%(昨年度)と財団会員
- ②60歳以上のアクティブシニア(団塊)
- ③40～50歳代のワーキング世代、女性

#### ニーズ

- ①インターネットで得られない信頼できる情報(特に医療、住居)の提供
- ②移住プロセス、生活設計提供

#### 訴求ポイント

##### ■「リアリティの提供

- ・ゆいま～るを中心に、実際に生活が行われている実施例等、客観的な生情報の提供。(ビジュアル、動画などを多用したアクティブ訴求を重視)
- ・ブース展示の現地情報、および移住実態に精通した信頼性の高い相談。

##### ■楽しさの提供

- ・特に「お試し移住ツアー」は、現地での観光・旅行を通じて行動の楽しさを十分に味わえるコンテンツを用意。
- ・重層的にツアーする楽しさを提案。

##### ■地域色を提供

- ・“地に足の着いた”地域の「すてき」をいきいき体感することで、さまざまな地域を検討する楽しみも提供。

#### 出展ブース

- パネル
- 移住者の音声入り動画
- 展示地域特産物プレゼント

#### お試し「移住ツアー」

- 雫石 ☆プリンスホテル宿泊  
☆パウダースノウを楽しむウインターレジャー  
☆町長と語る  
☆講演会(2/6 増田寛也)
- 都留 ☆エコハウス(都留市営)宿泊  
☆エクステンションセンター、大学の協力を得て  
楽しみのための勉学～楽しく学ぶ地域
- 厚沢部 ☆ゲストハウス(厚沢部町営)  
☆農業体験

#### セミナー

- 地域プロデューサー報告

# <移住受け入れの自治体で欠かせないこと>

---

- 地域包括ケアの構築
  - 地域の状況によって進めやすい方法で
- 住まいの提供
  - 空き家活用
  - 既存施設活用
  - 公有地活用 など
- 地元の理解
  - 地域住民の参加
  - 地域の事業者・NPOなどの参加
  - 議会の理解
  - 生涯活躍のまちによって地域が良くなることが見える
- 事業の継続性

# ＜受け入れ側の自治体の対応ステップ例＞

---

- 第1ステップ 町の状況・課題の把握  
住民と議会への説明と理解  
地域包括ケアの検討会を推進
- 第2ステップ まちづくり会社の設立(まちの総合プロデュース)  
移住促進のための短期の宿泊施設を確保  
(ちょっと暮らし、お試し移住)
- 第3ステップ 行政と介護サービスによる社会的入院の減少  
→介護型サ高住(拠点の整備)
- 第4ステップ 病院の再生・総合的な地域ケアシステムの構築  
空き家の活用
- 第5ステップ 給食センターによる食の包括的提供  
認定こども園
- 第6ステップ 自立型サ高住による移住促進  
福祉学校による人材育成と雇用促進



# <受け入れ側の自治体の対応例：厚沢部町（北海道）>



## <移住の種類>

---

- 都市部(東京・大阪・名古屋)
  - 周辺府県
  - 遠方、農村
- 東京・23区内
  - 東京・市町村  
(東京都内に住み続けたい人)
- 地方都市
  - 周辺市町村
  - 遠方、農村

## <10/10～10/20までの相談より>

---

- 日本経済新聞に掲載された移住促進センターの記事をみて来訪。  
67歳男性。都内戸建住宅に妻と2人暮らし。大手企業を退職後、ボランティアや社会活動に従事。故郷は四国。関西にセカンドハウス所有。医療介護の安心があり、最期まで暮らせる終のすみかを確保するため、将来の移住先を検討中。現在の自宅とセカンドハウスとも気に入っているが、身体が弱った時に住み続けられないことの不安がある。ともに地域づくりの担い手として社会貢献したい思いもある。
- 日本経済新聞に掲載された移住促進センターの記事をみて来訪。  
60代後半の夫婦。15年前に都内の自宅を子ども夫婦にわたし、島に移り住んだ。島での暮らしは快適で、仕事もある。しかし、年を重ねるにつれ、首都圏に住む子どもたちが「海を渡らなくていいところに住んでほしい」と希望。自分たちが元気なうちに、首都圏近郊に移住したい。自然豊かで、アクティビティも楽しめる暮らしがしたい。東京に近いところを希望。今後、セミナーなどに参加し、具体的な検討を進めたい。

## <10/10～10/20までの相談より>

---

- 日本経済新聞に掲載された移住促進センターの記事をみて来訪。66歳女性。独身。東京在住。「自然の豊かなところで暮らしたいが、運転免許を持っていないので、歩いてコンビニに行けるようなところに住みたい。また、東京住まいが長く、近所づきあいが濃密ではない方がいい。社会とつながっていたいので少しは仕事もしたい。こんな“わがまま”な願いが叶うような場所がありますか？」というお問い合わせ。彼女の希望に合うと思われるところを中心に紹介したところ、一度、現地へ行きたいとのことで、調整中。
- これまでに10の自治体が訪問  
そのほとんどが日経新聞や他の自治体から移住促進センター開設の報を聞いて見学に来たというケース(うち2つは東京事務所を開設しているので、移住促進センターとの連携を希望するとのこと)。  
問い合わせはセンターの機能や出展条件などが中心。センターが移住の呼びかけだけでなく、首都圏における移住のニーズ調査の機能に対しても高い関心が示された。

# フェイスブックとホームページ



<https://www.facebook.com/ijucenter>

<http://iju-center.jp/>

生涯活躍のまち  
**移住促進センター**  
2015年10月9日  
東京駅八重洲口に開設!

あ、ここで暮らしたい。

最近、「移住」ということは、よく目にしませんか？  
「少子高齢化」は、すっかりお馴染みですが、たとえ

